

コロナ禍は終わっていない…全国で置き換わり進むオミクロン株派生型「EG.5.1」に要注意

2023/08/24 日刊ゲンダイ



人出も増え、脱マスクも定着だが… (c) 日刊ゲンダイ

新型コロナが5類に移行して初めて迎えたお盆が終わり、心配なのが感染拡大だ。オミクロン株の派生型である「EG.5」が国内で主流になってきた。

厚労省の集計によれば、全国の新規感染者の定点当たり報告数は、15.91（7月24～30日）→15.81（7月31日～8月6日）→14.16（8月7～13日）と減少傾向。しかし、油断は大敵だ。昭和大医学部客員教授の二木芳人氏（臨床感染症学）がこう言う。

「全国に先立ち第9波に見舞われた沖縄県では、感染者数が減ってきています。第9波はピークに近いと考えられますが、例年、お盆の時期にいったんは新規感染者数が減り、お盆明けに小さな波がやってきます。今年も波が盛り返す可能性があるため、今しばらくは要注意です。特に高齢者や既往症のある方は重症化リスクが高いですし、若者も感染後の後遺症問題が解決していませんからね」

■免疫回避の可能性

全国的な感染拡大が一服しているとはいえ、気は抜けない。国立感染症研究所のゲノムサーベイランスによれば、「EG.5.1」が最多23.6%を占めている。

「EG.5.1は今まで主流を占めてきたXBB系統よりも若干、感染力が強いと考えられます。これまでのワクチンや感染によって得た免疫を回避する力を備えている可能性が懸念されます。他の変異株に比べてEG.5系統が重症化しやすいとの報告は今のところありませんが、注意するに越したことはありません。新たな感染の波にならないとも限りませんし、感染者が急増すれば、医療機関は逼迫してしまいます。高齢者の多い病院内や施設内はもちろん、人混みではマスクを着用するなど、場面に応じた感染対策が必要です」（二木芳人氏）

ポストコロナといわれているが、ウイルスがいなくなったわけではない。感染しないことが一番だ。